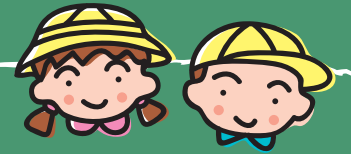


ほくのゆめ



いまい せいや くん
(さくら幼稚園・6歳)
大きくなったら消防士になりたいです。火を消すところがかっこいいな。

夏の交通事故防止県民運動

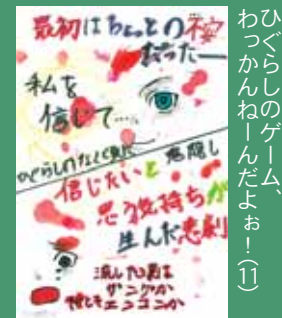
時は流れ、季節は巡って今年も8月1日から10日まで夏の交通事故防止県民運動が始まります。山田町では、町民の皆さま方の安全運転の励行のためにも、ただ今交通事故死亡事故は0で推移していることをまずもってお知らせします。さらなる安全運転で死亡事故0記録継続が延長することを願いたいものですが、死亡事故は減ってはいても、重大事故を起こしかねない飲酒運転は、どの様な厳罰になっても後を絶ちません。この現状を何と表現したらよいのでしょうか？

同僚や仲間と楽しく飲んで陽気なひとときを過ごしたら、運転代行などを使って帰宅すれば奥さんの小言のひとつはあるかもしれないが、最低でも加害者にならず、重大なる罪を犯すことは絶対にないと思われまます。それなのに自分は酔ってはいないと過信し、飲んでることを棚上げてハンドルを握ることで、円満な家庭を一瞬にしてすべて崩壊させかねないことをよく認識してほしいものです。家族の幸せのために安全運転を心に刻み、夏の交通事故防止県民運動を盛り上げて交通弱者(子供と高齢者)を交通事故から守ってほしいものです。

西館 隆(船越・?歳)

やまた文芸広場

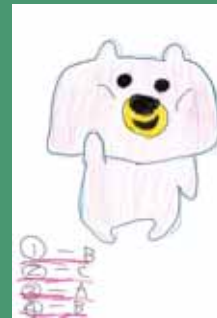
国体むけて励まん平泳ぎ
50の坂にむち打つ体
菊地孝進(船越・86歳)
山里にひとり住まんと思えれど
なぞ訪ね来るまた呼子鳥
菊地輝雄(山田・87歳)
古典読む源氏の恋の物語り
千年前に我を引き込む
大川ヒメ子(大沢・64歳)
山田丸船頭決まり船出する
佐藤兼男(荒川・82歳)
人様は色づくトマトに水をやる
すきみるカラス頭上で回る
大町テイ子(大沢・?歳)



わひぐらしのゲーム、
わつらんねーんだよおー!!



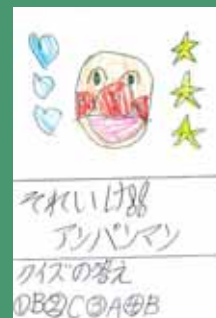
チエリー(10)



ハッピー(11)



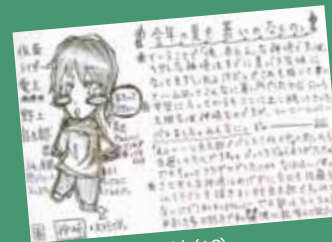
川野美穂(11)



川野愛美(6)



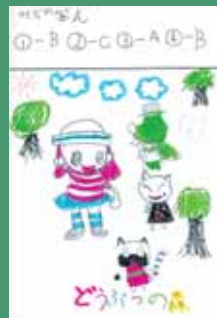
堀合悠斗(8)



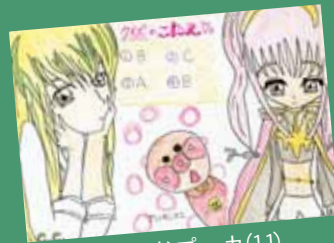
神崎(12)



ダメ人間(25)



山崎歩実(8)



フレンドブッカ(11)



湊貞子(7)



ナビ★ルナ(11)



E-zuka(7)



堀合綿花(9)



福土正子(68)

海岸清掃で感じたこと

7月5日に浦の浜での海岸清掃に参加しました。大人から子供までたくさんの方が参加していました。特に裏の山にゴミがたくさんありました。清掃が終わった帰り道に、ゴミを捨てる人は、自分の心にゴミ無いかと思いました。皆さん、ごみは持ち帰りましょう。

佐藤啓子(船越・?歳)

懐かしの歌に心遊ばせた日

6月末に、雅声会による「明治期の唱歌から新訂尋常小学校唱歌」という演奏会に出掛けた。

歌い継がれてきた「故郷の空」や「海」など17曲を、ふるさとの四季の移ろいを思い浮かべ温もりを抱きながら聞いた。夕日が傾くまで遊び過ぎてしかられたことなど思い出させる歌の数々に、心潤した。

懐かしの歌謡曲では、日本の心を歌った「湖畔の宿」、戦後のヒット曲「青い山脈」など10曲が、心を遠い日の優しさに運んでくれた。また、会場の皆さんとの「おぼろ月夜」、いつ歌っても新鮮で満喫した。

常日ごろ気ぜわしく過ごしているわたしも、たまにはのんびりと心遊ばせた、ぜいたくな日だった。

菊地サカエ(織笠・73歳)

山田よいとこ好きな町(15)

関口長次郎家の初代佐藤豊前信政は、文治元年(1185)出羽を出て陸奥に入った。兄の継信は屋島で討ち死にしたが、常に深く信じていた熊野権現の尊像は義経により信政に渡された。それを祭ったのが、この家の裏山藤ノ森にある熊野神社であると佐藤家古文書に記されている。この初代が豊前信政と名乗ったのは、豊間根の手前に住んでいたから豊前で、これがもし豊間根だったら豊中、それより北側だったら豊後と名乗ったかも。昔の殿様は筑前、筑後とか、備前、備中の守などと名乗っているの、わたしなりに一人思い入り、つまらぬことを楽しんでいるだけですけどねえ。こんな調子で、山田を訪れてくださる観光客の方々に話しながらご案内するのも良いのではないかとと思う。

ところで、山田でも昨年から観光案内ボランティアの養成を始めた。わずかな予算だが、もし参加者が単なる遊び心で、バスでの遊楽や昼食だけを楽しみに参加しているのであれば、貴重な町予算の無駄遣いになるのでは。大変な瀬戸際に立っているわが郷土にとって、心ある町民の参加のみがこの町を救える気がしてならない、と愛郷の念が切に胸を打つ。

また話が横にそれた。閑話休題。

15年ほど前、札幌新聞社が主催で、「義経伝説探訪の旅」という団体旅行の一行から突然電話があった。山田の義経伝説を伺いに参りたいのでよろしくとのことだった。当時わたしたちは「山田ふる里を考える会」を立ち上げ、会長に佐藤光作さん(長次郎家のご主人)のもとで、山田のためにといるいろいろな活動をしていた。旅行団が来る前夜、会長さんと2人で一行が宿泊していた釜石の魚抱大観音さん前の旅館を訪れた。旅行団のリーダーは、かの有名なSF作家の荒巻義雄さんと、札幌新聞社の記者で北海道新聞社の編集委員も務めるノンフィクション作家の合田一道さんのお2人だったので驚いた。しかも観光旅行に同行してきたのは、なんと北海道平取町周辺のアイヌ民族の人たちで、それも30人ほどの大勢の皆さんだったのに二度びっくりした。早速、主立った方々と名刺を交換して話し合いに入った。いろいろな話題に話も弾んだが、夜もふけて、翌日の再会を楽しみにして宿を退出、車で夜道を帰宅した。役場にも連絡してあったが、当時は観光にあまり関心が無かったようで、そちらで対応するよにとのことだった。

アイヌの町平取町には知る人ぞ知る義経神社もあり、アイヌの方々は今も昔も義経のことを「ホンカン」様(判官がなまったのかも)と呼んでいて、深く信仰しているそうです。伝説に義経は蝦夷地へ行き、狩猟民族のアイヌの方々に農耕を教えたことで彼らの暮らしが豊かになったからだそうです。だからアイヌの方々は義経の大ファンなんです。

(つづく)

ペンネーム・山田北州(山田・87歳)

◆投稿規定 ▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷投書を添削することがあります。
◆あて先 〒028-1392(住所不要)山田町役場総務課情報管理担当へ。